

チャレンジ

荒川区立峡田小学校 五年

中嶋 凌雅

やなぎ田先生こんにちは。先生は、子供のころどんなことにチャレンジしたことがありますか？ぼくは、二年生ぐらいの時、一人では乗れなかった電車に一人で乗れることができました。どこの駅で乗り、どこの駅で降りるのか渡されたメモを便りに進んでいきました。進んでいる時、「ぼくは電車に乗れるんだ。」と言う達成感を感じました。ここで先生に紹介したい本はロシアのみずくみです。ラオスに住む三才のロシア君が水場に水くみに行き重いタンクを何キロも歩いて運ぶとい

う実際にあったお話です。ぼくが住む東京は、水道のじゃ口をひねればきれいな消毒された飲み水もでてくるし、トイレに行けばきたないものも下水道に流されていく。考えてみれば今あたりまえに生活していることは、とてもありがたいことです。ラオスでは、プールも入れないし、もちろんお風呂にもだ。電気だってないだろう。世界には大へんなくらしをしている人たちもいて「生きる」ためには、家ぞく一人一人それぞれやくわりをもつて仕事をし、せきにん感があるとつくづく感じました。

このように本はいろいろなことをつたえてくれます。本はあるいみ世界のまど口なのかもしれません。最後にロシア君がくんできたのはコップ3ばい分でした。三ばいしかというかそれとも3

ばいもというのは、育ったかんきょうや人によって異なることかもしれません。そのコップ三ばい分がラーシア君の命の源なのです。ぼくたちがどんなに豊かな生活をしているのだということをし、りかいし、自分の生活をふりかえるきっかけとなりました。